



かがやく浜の子

令和2年度 12月号

令和2年度重点目標 「チャレンジいっぱい かがやきいっぱい」

自ら学ぶことの素晴らしさ

12月9日、本校でシニアスクールの卒業式が行われました。式には河原崎教育長が参列され、祝辞の中で、「84歳にして夜間中学校を卒業」の新聞記事を引用し、学ぶことの意義について言及されました。私は約一カ月前、84歳の中学生を取り上げたテレビ番組をたまたま視聴していたので、「私が観て、感動した方の話だ。」と、すぐに察知しました。その番組のそのコーナーの題は「妻に隠した夫の秘密」で、次のような内容でした。

35歳の西畑保さんは、大きな秘密を隠したまま、妻の餃子（しろこ）さんと結婚をします。結婚後半年、餃子さんから回覧板への署名を頼まれたことで、秘密がばれてしまいます。保さんの秘密は「文字の読み書きができない」ことでした。保さんは、山奥で生まれ育ち、幼少時に母親を亡くした上、生活は父親の仕事を手伝うことが中心で、読み書きは必要ありませんでした。小学校では、貧しさを理由に責められ、2年生から学校に行けなくなりました。その後も読み書きに関わることなく成長しました。

「俺は、文字を書くことも読むこともできないんだ」と打ち明ける保さんに、餃子さんは「一緒に頑張ろう」と、明るく励まします。それからは、ずっと餃子さんが保さんの読み書きを支え続けます。

二人は、出会ってから30年、64歳になりました。保さんは寿司職人をやめ、文字が書けるようになるため、夜間中学に通い始めます。覚えてもすぐ忘れてしまう「あいうえお」から始める学習でした。

共に70歳で迎えたクリスマスイブの日、保さんはいつものように学校へ。一方、餃子さんはテーブルの上に一通の手紙が置いてあることに気がつきます。『僕は君に、以前ラブレターを書く約束をしましたね。なかなか、書く勇気がありませんでした。今年で、君と結婚して35年目になりましたね。クリスマスに君に感謝の気持ちこめて、ラブレターを書きます。君が僕についてきてくれたことを、感謝しています。…』便箋7枚もの間違いだらけの保さんからの手紙でした。保さんは、餃子さんに手紙を書くために学校に通っていたのです。それから、保さんは想いをラブレターに託して渡します。しかし、4通目を渡そうとしたクリスマスの前日に餃子さんは、心臓発作で急逝してしまいます。

餃子さんの名前の文字「皎」を調べると、「月の光が白く見えるさま、白くて清らかなさま」とありました。餃子さんは保さんにとって、行く先を照らす光のような存在だったのでしょう。保さんは、今年3月、19年かけて夜間中学を卒業しました。現在は講演の依頼も受け、学校で習ったパソコンで作文をしているそうです。

このエピソードから感じたことは、「自ら学ぶことの素晴らしさ」です。学びは目的を持った時に、さらに主体性を伴ったものになります。学びを支える存在があれば、なおさらです。12月5日には、浜の子発表会を行いました。子供たちにとって、今までの生活科やはばたき学習での学びの成果を、保護者の皆さんに参観していただく日です。子供たちは分かりやすく伝えることを目的に準備や練習を重ねてきました。教師も子供たちの発表への支援を続けてきました。そして当日、子供たちの表情には、伝えることの喜びと自信が溢れていました。保護者の皆さんから寄せられた「浜の子発表会のががやき」も、今後の学びへの励ましとなります。浜の子発表会も「自ら学ぶことの素晴らしさ」を改めて感じた一日となりました。

※

コロナ禍で、様々な変更や縮小を余儀なくされた今年の教育活動でしたが、保護者・地域の皆さんの御理解と御協力のおかげで、新しい年を迎えることができます。ありがとうございました。御家族そろって、穏やかなよいお年をお迎えください。(文責 校長)

